

第 26 回福島災害医療セミナー(被ばく医療基礎コース)、第27回福島災害医療セミナー(被ばく医療応用コース)に参加しました (2017/7/14-15、8/4-5)

テーマ：災害医療、被ばく医療

会場：福島県立医科大学 災害医療総合学習センター、福島医科大学病院 放射線カンファレンス室

2017年7月14日-15日に福島県立医科大学災害医療総合学習センターにおいて、第26回福島災害医療セミナー(被ばく医療基礎コース)が、また、8月4日-5日に福島医科大学病院放射線カンファレンス室において、第27回福島災害医療セミナー(被ばく医療応用コース)が開催され、稲葉洋平助教(災害医学研究部門 災害放射線医学分野)が参加しました。

第26回福島災害医療セミナー(被ばく医療基礎コース)は、講義・実習等を通じ、災害医療・放射線被ばく医療の知識及び技術を備え、災害時に活躍できる人材の育成を行っています。また、不安を抱える人々の身近にある医療関係者、行政関係者等に放射線に関する知識・情報を提供することも併せて目的としているコースです。当日は、医師、看護師、診療放射線技師、救急救命士、消防隊員、臨床検査技師、行政職員など37名が参加しました。プログラムは、講義として福島の震災、放射線リスク、子供の健康など福島の実際について学び、実践として放射線測定、リスクコミュニケーションや福島原発事故問題と避難者のメンタルヘルスなどのワークショップを行いました。多職種との議論の場が多くあり、活発で有益な情報が飛び交っていました。

第27回福島災害医療セミナー(被ばく医療応用コース)は、より実践的な被ばく医療に関する講義・実習等を行い、被ばく医療の即戦力となる医療人の育成を目的としています。当日は、医師、看護師、診療放射線技師、救急救命士、消防隊員など11名が参加し、実践的な被ばく医療実習を行いました。プログラムは、講義として急性放射線症候群と放射線事故の歴史や被ばく・汚染傷病者医療対応の基礎について学び、実践として実際に除染棟にて汚染検査法や緊急被ばく医療のミッションを遂行しました。実践さながらのタイバックスーツを着て、バイタルサインチェック・汚染チェック・除染技法を肌で感じ、通常の救急医療との多くの差異や課題を得ることができました。



緊急被ばく医療実習の様子



コース修了証

文責：稲葉洋平(災害医学研究部門)